

(第2号様式)

神奈川県教育委員会教育長 殿

平成23年4月8日

平成22年度学校評価実施報告書

県立大師高等学校長

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
体験や実習を通じて学習意欲を喚起し、基礎的な知識の定着と表現力・思考力を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>*生徒の状況に応じ、学習意欲を引き出すための授業改善を進める。</li> <li>*基礎的な知識・理解の定着をはかるため、教科としての組織的な工夫・改善を進める。</li> <li>*総合学科の特色ある科目の精選・充実を図り、生徒のキャリア形成につながる取り組みを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*授業時間ごとの学習目標を提示し肯定的授業評価80%以上を達成できたか。</li> <li>*基礎的な知識定着に向けた教科としての取組みが進んだか。</li> <li>*実習・体験を通じた取組みの充実が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*ほとんどの授業で、授業の最初に授業時間毎の学習目標を提示した。また、生徒による授業評価において肯定的な授業評価が概ね80%超を達成することができた。</li> <li>*生徒にノートやシートの記入を促し、学習内容を整理させ、基礎・基本的なことは繰り返し学習させるとともに、小テストを実施し、その定着をはかる工夫を行った。</li> <li>*様々な科目で体験的な学習を進めた。特に実習中心の科目や「産業社会と人間」、修学旅行において地域の教育資源を活用した取組みを行い、生徒の気づきや意欲の喚起を行なった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*研究授業週間をより実践的な授業力向上につながるようになり、その方法や設定時期での工夫が必要である。</li> <li>*基礎・基本的な知識の定着に向けて、組織的な取組みがやや欠けている。教科・系列での検討を続ける。また、平成23年度から設置した国・数・英の基礎科目を充実させていくことも課題である。</li> <li>*外部の教育的財産を活用した取組みは多いが、それは本校職員の個人のネットワークや力量に追うところが非常に大きい。組織として活用できるような工夫が求められている。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*家庭学習はほとんど行なっていない。しっかりとした学力がついているとは思われない。</li> <li>*総合学科のさまざまな選択科目で意欲的に取り組んでいる科目もあるようだ。(学校評議員)</li> <li>*高校卒業後に、基礎学力はとても必要。近年、若年層の基礎学力が低下してきている。基礎学力を定着させる取組みが必要であろう。また、基本的な学習の方法についても身につけさせるべきである。</li> <li>*課題研究発表会では、多様で個性的な充実した発表が多かった。また、発表を聞く態度については、改善が見られた。</li> </ul>	<p>生徒による授業評価の結果は数値目標を達成できた。数値の結果だけでなく、生徒の学習意欲の向上や基礎的な知識・理解の定着をさらに図り、表現力・思考力を図るための授業改善を目指し、「授業力向上のための校内研修」の取組みを中心として進めることが必要である。</p> <p>また、長年にわたる本校の特色ある総合選択科目の取組みの成果を継承し、地域の教育資源を活用した組織的な取組みをより一層図っていくことが必要である。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>社会人としてのマナーやモラルの育成に向け、基本的な生活習慣の確立を図ります。</p>	<p>* 家庭の理解協力を求め、遅刻・欠席に対する指導を学校全体の取組みとして進める。 * 生徒の状況に応じ、マナーやモラルの育成と向上を目指した指導・助言を行う。 * 生徒の理解に努め、生徒相談体制をさらに充実させ、支援が必要な生徒について指導・助言を行う。</p>	<p>* 遅刻・欠席の総数が前年比20%以上の減少ができたか。 * 服装・頭髪指導の成果があるか。 * 教育相談連絡会を設置し、定期的な取組みができたか。</p>	<p>* 遅刻指導を強化するとともに、授業開始時に教員が教場にいることや巡回指導を通じて授業遅刻の減少に努めた。その結果、遅刻については前年度比38%の減少があり、授業遅刻も大幅に少なくなった。 * 制服とは違う異装をしている生徒についての指導を強化することによって、大幅な異装はなくなった。 * 教育相談連絡会を設置し、課題の大きな生徒について多角的に生徒理解を進めた。その結果、生徒へのサポートが手厚くなり、事態の好転が見られた。</p>	<p>* 遅刻件数が減少したものの、欠席数の減少がみられなかった。そのため履修条件を満たせなかった生徒もいるので、これらの生徒の意欲を喚起するために、生徒の状況に応じた支援に取り組む。 * 服装頭髪指導については、指導に従わない生徒が固定化している。また、家庭の協力を得にくいことも一因になっている。指導体制を確立し、今後も粘り強い指導を行なうことが必要であろう。 * 今後も多角的な生徒理解が必要で、そこでの理解をより多くの教員が情報を共有することが求められている。そのために生徒と向き合う時間の確保等の環境づくりが重要である。</p>	<p>(保護者) * 遅刻指導・服装指導について、学校の指導に対して理解し、協力をできる範囲で行なっている。しかし、生徒よりも保護者が先に家を出ているので、強力な指導ができない。 (学校評議員) * 高校生を採用する立場から、今の高卒の若者の中に、あいさつができない、など基本的なマナーを身につけていない人が少なからずいる。また、怒られ慣れていない。上司が怒るとすぐに止めていってしまうといったメンタル面が弱くなった。 * 大師は「自由だ」との情報だが、プロフのなかで流れている。様々な生徒指導が行な</p>	<p>遅刻欠席総数では、37.6%減となり、大幅に数値目標を達成できた。しかし、欠席数においては、若干の増加が見られ課題として残った。服装・頭髪指導においては、引き続き家庭の理解を得ながら粘り強く取り組む必要がある。同時に、生徒が抱えている課題の多様化・深刻化の傾向は続いており、生徒の状況に応じた支援が引き続き必要である。 また、支援の必要な生徒も多様化・深刻化しており、今年度組織化した生徒相談連絡会の機能をより充実させることが求められる。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
キャリア教育を推進します	<p>*「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」の取組みを中心に、総合学科での学びを個々のキャリア形成につなげる取組みを進める。</p> <p>*授業・課外活動・学校行事・HR活動において、キャリア形成を進める。</p> <p>*地域の教育資源を活用し、校外の教育活動を通じてキャリア形成を進める。</p>	<p>*卒業時の進路決定数の増加が10%以上あったか。</p> <p>*キャリア能力の育成が図れたか。</p> <p>*校外での教育活動の充実を図れたか。</p>	<p>*卒業時の進路決定者が前年度比20%の増加があった。</p> <p>*本校での学びを通して、自分の将来に繋げる方向性を見出した生徒も多くみられる。情報を集め、そのなかから課題を見出し、自分なりの考えをたて、それを発信する力を持っている生徒は多い。</p> <p>*地域の教育資源を活用し、「産業社会と人間」や福祉・環境等の総合選択科目を行った。また、そのことによって職業観の育成や地域理解、そして生き方を考えさせることができた。</p>	<p>*今後も進路決定者が増え、進路未定者がさらに減少することが必要である。</p> <p>*様々な教育活動で、キャリア能力の育成を視点にすえた見方、考え方を継承していくための校内研修を継続していくことが必要である。</p> <p>*校外での学習によって単位を修得する人数は多いが、なかにはその取組みへの意欲が弱かったり、マナーが課題になることもあった。事前・事後指導を充実させる必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <p>*普通科にはない学びで、普通科に通う他の兄弟と比べるといい意味で差がある。</p> <p>*学校以外にも、学校外の活動によっても単位修得ができることは、学校外の活動を学校に認めてもらったと考えられ、励みになる。(学校評議員)</p> <p>*かつては中卒でも社会の中で次のステップを踏むことができたが、今の時代は困難。高校を卒業することはキャリア形成の上でも欠かせない。</p> <p>*アルバイトでコミュニケーションや規律を学んでいる。アルバイトの負の面を雇用者の指導で無くして、生徒の成長を図る仕組みができないだろうか。</p> <p>*地域には、様々な教育資源があるので、活用して欲しい。そのための学校側の窓口を用意していた方がよい。</p>	<p>卒業時の進路決定者数においては数値目標を達成することができた。就職については厳しい状況の中で生徒の職業希望と求人状況のギャップ等の課題があり、今後の指導について検討が必要である。</p> <p>また、キャリア形成においては一定の成果が見られたが、本校生徒の状況に応じた、重点的なキャリア能力の形成を図る取組みが求められる。</p> <p>加えて、地域の教育資源の活用の組織化の取組みが求められている。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
円滑で効率的な学校運営を進めます。	<p>*適切な進行管理を行い、校内組織の有機的連携を進める。</p> <p>*地域・保護者との連携をさらに進め、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。</p> <p>*本校教育活動を積極的に発信し、広報活動を推進する。</p> <p>*様々な業務における事故・不祥事防止の取組みを進める。</p>	<p>*グループ間の連携が図れたか。</p> <p>*地域連携活動・PTA活動の充実を図れたか。</p> <p>*学校説明会・HP等の充実を図れたか。</p> <p>*事故・不祥事の取組みが進んだか。</p>	<p>*グループリーダーが中心になってその他のグループとの連絡調整に努め、様々な業務を前進させた。</p> <p>*吹奏楽部や茶道部、漫画研究部、サッカー部などいくつかの部活動において、地域連携を進め、地域の様々な活動を支えることができた。また、PTAにおいても地域行事に積極的に参加した。</p> <p>*学校説明会や高校体験プログラムの参加を得て、広報活動の充実を図れた。また、その結果、前期約3倍、後期約2倍の志願者を集め、成果を挙げた。</p> <p>*年度当初にUSB紛失事故があり、保護者や県民の信頼を損なう結果となった。その後、不祥事防止に向けての注意喚起や研修の場を多く持った。</p>	<p>*平成23年度から新たなグループに再編した。今年度は業務をスムーズに引き継ぐことと、再編のねらいであった学校目標および重点目標の達成を果たすことが課題となる。</p> <p>*職員の異動がある中で、昨年度と同じ規模での地域連携を行うことができるか。</p> <p>*平成23年度は学校説明会の回数を一回減らす。より効果的に教育活動の広報をすすめることと、学校ホームページの充実が課題である。</p> <p>*職員の大幅な異動がある中で、継続的な不祥事の防止のための注意喚起を進め、研修を充実させることが重要である。</p>	<p>(保護者)</p> <p>*学校のホームページは、情報発信という面で重要。中学生の保護者や在校生の保護者はホームページをよく見ている。情報の更新を行なうのはもちろん、様々な教育活動を展開しているんだから、もっと情報量を増やして欲しい。(学校評議員)</p> <p>*ホームページについては、重要。それと生徒を使って、子どもたちの高校での変容を伝えることも大切。</p> <p>*メール発信サービスについて検討したらどうか。</p> <p>*地域のお祭りには大師高校にも参加してもらっている。人間と人間の付き合いは、話すことから。世代を超えて語って、一緒に地域のお祭りを作り上げていきたい。</p>	<p>重点目標に挙げていた、校内組織再編を実現し、H23年度より新たな校内組織で学校運営にあたる。再編によって生じる課題を克服し、学校目標および重点目標の達成を図る。</p> <p>各グループの組織的な取り組み、適切な進行管理を一層図る。</p> <p>また、課題である学校ホームページの充実や事故・不祥事防止に向けた研修等の充実に向け一層の取組みを進める。</p>